

-令和3年度学校評価(幼稚園)-

学校評価(幼稚園)

教育目標(キリスト教精神に基づくバランスのとれた人間教育)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	幼稚園としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	B	教育目標を常に意識し、教員は計画を立て行っている。行事ごとに重点を設け取り組んだが、保護者へそれを発信し等行うことで精一杯となり、振り返りの時間をとることがやや難しくなっていた。今後は時間の割合を考えた計画的に行っていきたい。	A	・サレジオの教育目標の周知徹底は、生徒だけでなく保護者に対しても強力に進めるべきである。 ・カトリック学校の教育の特長を子供たちの成長過程の中で伝えることは、何十年経っても心に残り続けるので是非生かしていただきたい。
2	宗教指導	A	今年度は、「お祈り」を大事にしてきた。その時々徳の花も子どもたちがわかりやすく、取り組みやすいものと考えた。保護者にも理解いただき、子ども達も大人の姿をみてか園全体が良い雰囲気になっていることから、カトリック園として、日々の使命は果たせていると思う。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	学年に留まらず、他学年の教員とも連携をとり、子どもの興味関心を引き出せるような環境を講じてきた。クラスの枠を超えて、異年齢児との関係性の良さにも表れている。	A	自己評価に同意
4	教科指導	A	教員がまず研修を積極的に受け、分かち合い その子一人一人に合った対応やプログラムを考えてきた。それでも難しい時は、養護教諭や、学園カウンセラーなどの専門家からの意見をとり入れ、保護者にも伝えながら進めている。	A	・今でこそ一般的になった自由登園は、当初は前例もなく不安な状況でスタートしたが、柔軟な対応ができていた。園児の状況を見ながら行事の実施要領も変更されており、細かな気配りがあったと思う。今後も安心してお任せしたいと思う。
5	遊び指導	A	子どもたちの中で教師自身がモデルとして遊びの援助者としてふさわしい姿でかかわっている。	A	自己評価に同意
6	行事	A	園の行事内容、管理運営が適切に行われ、かつ協力体制が整っている。	A	・コロナ禍の中、学校行事の削減、中止で子供たちの思い出つくりの機会が失われているのが可哀そうではない。手作りで良いのでなにか代わるものを検討していただきたい。
7	研修	A	教師の資質向上のため、園内研修やその他の研修が適切に行われ、それを自分自身の保育に生かそうと努めている。	A	・コロナ禍で外部での研修機会が減っているのではないと思うが、内部での研修を強化するなど対策願いたい。
8	生活指導	A	子どもたちへの適切な指導のために、教職員の連携や協力体制が適切に行われている。	A	・様々なイベント、活動で密を作らないよう、空間的、時間的分散が行われており工夫されていると感じた。
9	保護者とのかかわり	A	教育活動における保護者とのかかわりにおいて、情報発信や協力と支援などが適切に行われている。	A	・昨年度以上にコロナウイルスの感染拡大により、全く現場を見ることが出来なかった。ただそんな中でも、園長先生と連絡を取り合いながら、関わる事が出来た。 ・保護者から、少し感染が落ち着いていた時期に少人数制でも保育参観があったらうれしかったとの声があった。
10	安全管理	A	子どもたちの健康や安全を守るために、適切な指導や施設管理が行われている。	A	自己評価に同意
11	分掌	A	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対して責任を持って取り組み、機能している。	A	自己評価に同意
12	関連事業	A	子育て支援の一環としての預かり保育やその他の事業が適切に行われている。	A	・預かり保育の方が多くなっているのでも先生方の負担を軽減できる何か対策があれば良い。
13	施設・設備	A	園の施設整備は子供たちが生活するうえで適切な環境として管理されている。	A	・サレジオ幼稚園でも預かり保育の園児が以前より増えていると聞く。今後もさらに増える事が予想されるので、預かり保育の施設(遊戯室等)の新設も検討してはどうか。

-令和3年度学校評価(幼稚園)-

<p align="center">全般、総合評価</p>	<p align="center">A</p>	<p>近隣も含め令和4年度は幼稚園として運営する園が清水区で3園(本園含め)になってきている。少子化の影響もあり、園児数の確保は難しくなっていく中で、定員確保できていることは、現在のサレジオ全体の取り組みが良い方向にしていることだと感じる。それに安心することなく、社会の動きを汲み取り、同時に学園全体で連携をとりつつ、保護者との連携、子どもたちのよりよい育ちに重点を置いて活動を進めていきたい。そのために研修の参加を引き続き行い、新たな情報を取り入れ、PYPの取り組みを中心に教育課程の内容見直しにも力を注いでいきたい。</p>	<p>・2020年度と比べると、活動の是非などの判断基準が整い、園児や保護者をスムーズに誘導できていた。</p>
-------------------------------	-------------------------	--	--

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

評価いただきました通り今年度は、前年度に比べコロナ状況において何もできないのではなく園児の安心・安全を守りつつ運営できるよう1つ1つを丁寧に考えられる限りを行ってきました。活動に関してご家庭と園と連絡を密に取り合いながら子どもにとっての最善を尽くし共に歩んだ1年だったと思います。今後に関しても、引き続き保護者と連携を取りつつ子どもの心の安定につとめ、コロナ禍において(マスクをして距離を保たなければならない制約の中でも)卒園する時まで愛されているという実感が持てるよう取り組んで参ります。生活、遊びに関する保育環境も新たな視点をもつてのぞみ、こどもの育ちを保護者と共に分かち合えるようにと考えています。3～5歳の大切な時期はやはり園と家庭との連携が大切であること、また目に見えないこどもの育ちにも重点をおき、引き続き連携を取っていきたいと感じました。